

秋季彼岸会

並

総永代経法要

兼・墓地納骨(物故者)追弔法要

日時

9月24日(日)午後1時30分

講題

「善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり」

法話

宮部 渡師 (第15組西稱寺住職)

ご講師からのメッセージ

この言葉は、『歎異抄』後序に出てきます。直訳しますと、「私は、善い、悪いのことはまったく知らない」ということです。この言葉に出会ったとき、親鸞聖人ともあろうお方がと、落胆したのを覚えております。例えば、会社の上司が、部下である私にこんなことを言ったなら、ついていこうとは思いません。いったい、この言葉の本当の意味することは？

無垢な赤ちゃんの顔を見ていると仏さまのようだ、と手を合わせたくなりなす。それに比べて、毎朝鏡に映る自分の顔には嫌気がさします。その赤子もやがて、目が見えるようになり、離乳食を食べるころには、「自我」が芽生え、親からスプーンを奪おうとします。これが人間の行う初めての争いかもしれません。この日から私たちは自我を離すどころか育て続けてきたのです。宮城顛先生の残してくださった言葉に、「私たちの人生の争いは、善と善との争いだ」というものがあります。私の身近なところの争いも、今もやむことなき世界的な戦争も、自我が常に自分を正義の側に立たせてしまっていることが困となっているのでしょうか。お彼岸に皆様と「如来の御心」をたずねてまいりたいと思います。